

できることから始めよう

名鉄広見線を残すために

名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅）の存続が問題になっています。市では現在、ほかの沿線自治体などと連携し、名鉄広見線存続のために必要な調査・検討を進めています。そこで、これまでの経過をお知らせし、名鉄広見線を残すために何ができるのかを考えます。



名鉄広見線のいま

名鉄広見線はこれまで、地域の公共交通機関として通勤・通学などに利用されてきました。しかし、近年の車社会の進展や少子高齢化などにより、利用者が減少傾向にあります。特に、最近10年間で利用者が半減しています（図1参照）。

図1 名鉄広見線(新可児駅～御嵩駅)の年間輸送人員の推移 (提供:名古屋鉄道株式会社)



こうした状況の中、昨年11月に運営主体である名鉄から市および御嵩町に対し、「民間事業者として、これ以上維持継続することは難しく、今後の方向性について市町の考え方を平成20年末までに示してほしい」との申し入れがありました。

これを受けて、市では御嵩町と連携し、名鉄と協議を重ねてきました。また、今年5月には市、御嵩町、八百津町の関係者により名鉄広見線対策協議会(以下、対策協議会)を設立し、沿線地域が一体となって名鉄広見線の利用促進や活性化のための方策を検討しています。

これまでの取り組み

対策協議会では、今後の対応を検討する上で必要となるさまざまな取り組みを行いました(下部の表1参照)。その一つが、国土交通省中部運輸局

の公共交通活性化総合プログラムによる「名鉄広見線の利用促進に向けた基礎調査」です。この調査では、沿線住民や路線利用者を対象としたアンケート調査などにより、名鉄広見線の特性や利用実態の把握を試みました。

調査から見えてきたもの

名鉄広見線の利用促進に向けた基礎調査から

沿線住民を対象としたアンケート調査では、約95%の人が存続を望んでいることがわかりました。特に、子どもや高齢者など交通弱者のために存続が

一方、名鉄広見線利用者の主役ともいえる高校生を対象としたアンケート調査では、回答者の約65%が同路線を利用していました。そして、そのうちの約41%は鉄道に替わる交通手段がないと回答しており、廃止になれば高校生の通学に支障が生じる恐れがあります(図3参照)。

住民アンケート調査から

対象を沿線住民に限定せずに実施した住民アンケート結果からは、皆さんが名鉄広見線のどのような点に存在価値があると考えているかをうかがい知ることができま

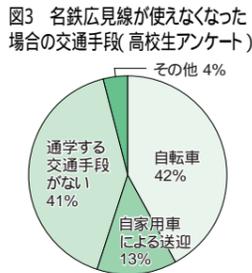


図2 名鉄広見線の運行継続のあり方(複数回答可)

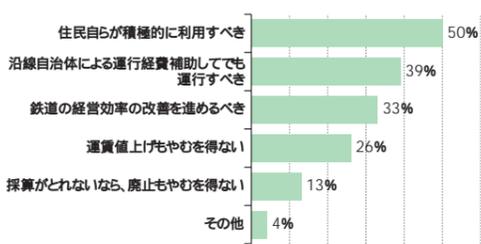


図4 名鉄広見線の存在価値についての評価

項目	非常にそう思う	まあそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
自分自身の重要な移動手段である	16%	12%	14%	24%	34%
目的地に早く到着できる	11%	19%	26%	21%	23%
安い費用で到着できる	13%	21%	30%	19%	16%
確実な時間に到着できる	24%	35%	17%	12%	11%
快適に移動できる	17%	40%	19%	15%	9%
道路混雑を抑制する	21%	41%	19%	14%	6%
交通事故の増加を抑制する	21%	42%	20%	12%	5%
環境悪化を抑制する	27%	47%	15%	7%	4%
地域の象徴的存在である	28%	36%	21%	11%	5%
いつでも利用できる安心感がある	42%	37%	8%	7%	5%
交通弱者に有効である	59%	30%	7%	2%	2%
市外・県外からの来訪者に有効である	32%	31%	22%	11%	4%
観光資源として活用できる	26%	32%	26%	11%	5%
沿線地域の一体感がある	23%	36%	25%	11%	4%
まちの活性化につながる	32%	35%	20%	8%	4%

値があると考えているかをうかがい知ることができま。名鉄広見線の存在価値として最も高く評価されたのは、沿線住民の意見と同様「交通弱者に有効である」ことです。そのほか、「いつでも利用できる安心感がある」「環境悪化を抑制する」「まちの活性化につながる」といった項目が上位を占めています(図4参照)。

また、市町の予算(税金)から財政支援を行うことについては、全体の7割近くが賛同しており、その金額として最も回答数が多かったのは、一人当たり年間1000円(33%)、次いで500円(24%)、2000円(12%)でした。

存続のためにできること

存続のための財政支援を行うのか。また、行つたら支援の方法や内容をどうするか。これらの課題は、対策協議会を通じて、名鉄との協議を今後も継続しながら検討していきます。



帰宅の途につく高校生たち(御嵩駅)

しかし、財政支援により存続することになったとしても、利用者の減少傾向が止まらず、採算がさらに悪化すれば、廃止となる可能性は依然として残ります。

名鉄広見線を将来にわたり残していくためには、皆さんの積極的な利用が欠かせません。これは、名鉄広見線に限らず、鉄道やバスなど全国の地方公

表1 各種調査の概要

調査の種類	調査対象	配布件数	回収数(回収率)	概要
沿線住民アンケート調査	広見線(新可児駅～御嵩駅)沿線住民	2,420 (可児市 920, 御嵩町 1,500)	1,164 (48%)	7月11日 郵送配布(無作為抽出)
駅利用者アンケート調査	広見線駅利用者(明智、顔戸、御嵩口、御嵩の各駅)	1,107	515 (47%)	7月10日・13日 明智、顔戸、御嵩口、御嵩の各駅で配布
高校生アンケート調査	可茂地区高等学校生徒(電車が利用可能と思われる生徒)	-	1,204 (-)	6月30日 可茂地区高等学校PTA連合会が実施
住民アンケート調査	可児市または御嵩町の住民	3,400 (可児市 1,700, 御嵩町 1,700)	1,584 (47%)	9月12日 郵送配布(無作為抽出)

必要と考えている人が多いようです。しかし、日ごろ名鉄広見線を利用している人は沿線住民全体の約30%にとどまり、しかもそのほぼ半数が年数回しか利用していないなど、利用者の減少を裏付ける結果となっています。

また、どのように存続させるのかについては、「住民自らが積極的に利用すべき」が50%、次いで「沿線自治体による補助」が39%となっていますが、「採算がとれないなら、廃止もやむを得ない」と考えている人も13%存在します(次ページの図2参照)。

公共交通機関に共通する課題でもありません。公共交通機関の利用は、同時大量輸送による二酸化炭素の排出抑制など、地球環境に与える負荷の軽減につながります。また、マイカー利用と比べて運動量やカロリー消費量が増えるなど、健康にも良い影響があります。

こうした点にも注目し、通勤・通学をはじめ、日常のお出掛けの際には、名鉄広見線はもちろん、鉄道やバスの利用にご協力をお願いします。

【今後の方針を決定】

12月5日に開催された名鉄広見線対策協議会において、同路線の存続を目指して、沿線市町による支援策も含め、名鉄と実質的な協議を進める方針が承認されました。

問合先 総合政策課

名鉄・YAOバスがダイヤ改正

名鉄は、12月27日(土)にダイヤ改正を実施します。今回の改正では、中部国際空港行き特急「ミュースカイ」を除く特急の一部特別車化や、特急を中心としたダイヤ再編と停車駅の見直しなどが行われます。この改正により、特急が利用しやすくなるほか、ダイヤの分かりやすさや乗り換えの利便性向上が図られます。なお、名鉄のダイヤ改正に伴い、名鉄明智駅と八百津町を結ぶYAOバスのダイヤも改正されます。詳しくはお問い合わせください。名鉄のダイヤ改正については... 名鉄お客さまセンター ☎052(582)5151 YAOバスのダイヤ改正については...総合政策課